



第13回企画展(会期:平成25年1月16日(水)~4月7日(日))

## れいめい 筑後考古学の黎明

—田中幸夫コレクション展—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

九州歴史資料館では、発掘調査で出土した遺物や、県内各地からお預かりしている文化財の他に、寄贈を受けた多くの資料を所蔵しています。その一つに「田中幸夫資料(コレクション)」があります。

本展では、氏が最も深くかかわった筑後地域の収集資料を中心に、筑後考古学の黎明を飾った資料など、およそ100点を展示し、コレクションの学史的意義、さらには収集資料からみた筑後地域の歴史的重要性についても紹介します。

### I 田中幸夫の略歴とコレクション

田中幸夫(1901~1982)は、九州考古学界黎明期の考古学研究者です。田中は昭和5年(1930)に結成された九州考古学会に鏡山猛(九州大学考古学研究室初代教授・九州歴史資料館初代館長)らと共に参加し、それを機に幅広い調査研究活動が始まります。

昭和6年には弥生土器の標識遺跡として名高い立屋敷遺跡(遠賀郡水巻町)を発見、さらには塚堂古墳、珍敷塚古墳(うきは市吉井町)、鐘崎貝塚(宗像市)など今日でもなお重要な遺跡を次々に発見しました。

一方で、田中は高校教員として、戸畑・宗像・浮羽・黒木・久留米など、県内各地に赴任し、その先々に常に講演や文筆、また日常活動を通じて、考古学上の遺跡・遺物の重要性を訴えました。

また、収集した考古資料を一括保管・保全して公開する施設の設立を強く望み、昭和13年に完成した宗像郷土館の設立に尽力しますが、戦後の混乱により廃館

となってしまいます。これを機に研究生活の間に収集した考古資料を、地元の公的機関に一括保管・公開することを希望し、昭和56年に九州歴史資料館に一括寄贈されました。これが「田中幸夫コレクション」です。

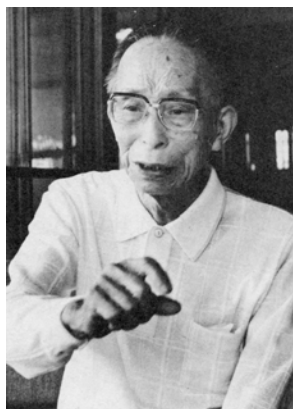
### II 筑後川流域の遺跡

田中幸夫コレクションの中心をなすのは、田中が生まれ育ち、後半生を過ごした筑後地域の遺跡で採集したものです。ここでは、筑後川流域の遺跡から、法華原の縄文遺跡、宝満川床遺跡、塚崎貝塚を紹介します。

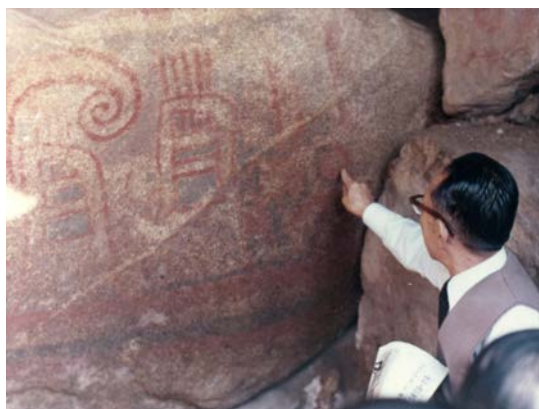
田中は、うきは市吉井町法華原にて縄文時代の遺物を大量に採集しています。縄文土器は、縄文時代早期から晩期まで、全時期を通じ、北部~中部九州の縄文土器の標識となる型式の多くあります。また石器も、通常の石鏃や石斧、石匙の他にも、十字形石器や軟玉質塊状耳飾などもあり、多彩な遺物構成が窺われます。

久留米市小森野町は筑後川と支流の宝満川が合流する地点で、川床から多くの遺物が採集されています。田中はこの川床から完形の弥生時代前期の土器、古墳時代の土師器、須恵器の他、滑石製子持勾玉や有孔製品を採集しています。水辺の祭祀に使われたであろう子持勾玉は、非常に類例が少なく重要な資料といえます。このほかにも、中世の土師器も採集しています。

塚崎貝塚は、筑後川下流に面した遺跡で、弥生時代から古墳時代にかけての土器や、弥生人が食した痕跡と考えられる貝殻なども採集されています。



田中幸夫氏(1981年)



珍敷塚古墳(うきは市吉井町)の壁画を案内する田中幸夫氏



田中幸夫寄贈品目録(1982年)

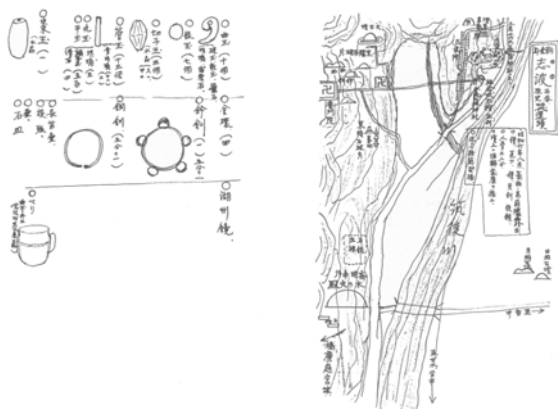
### Ⅲ 田中幸夫の遺跡地図をよみ解く

田中は、単に遺物を採集していただけではなく、いつでもどこで採集したのかを丁寧に記載しているものが多く、それがコレクションの考古学的価値を高めています。

中でも昭和6年(1931)から8年にかけて県内各地の遺跡において遺物を採集した際には、どこで何を採集したかがわからなくなならないように、遺跡地図を作成しています。清書はされていませんが、現在では消滅してしまった遺跡や、田中コレクションの資料と判別できる記載が多くみられ、非常に重要な資料といえます。

ここでは、それらの中から、筑後にまつわる2つの遺跡地図を資料と共に紹介します。

久留米市田主丸町石垣周辺を描いた地図は、田中が製作したものの中でも、もっとも詳細なものです。田中の地元であったため、何度も採集を試みたものであ



田中幸夫の遺跡地図の一例 (朝倉市志波)

ると思われます。弥生時代から古墳時代、さらには中世の遺物など丹念に表記しています。採集品としては、国指定史跡・田主丸大塚古墳周辺で採集されたとみられる埴輪などもあります。

朝倉市志波周辺を描いた地図には、様々な遺跡や採集した資料を書き留めているほか、昭和6年に発見された箱式石棺から出土したものの一覧が載せられています。中でも「マリ」と書かれた取っ手のついた土器は、日本列島に初めて須恵器製作技術が導入された5世紀前半の資料で、非常に貴重な資料といえます。

### Ⅳ コレクションの数々

ここでは、田中コレクションの中から、優品とも呼べるものをいくつか紹介します。これらの中で、指定を受けている資料は3点あります。それらは全て筑後地域から出土したもので、県指定文化財となっています。

また、田中コレクションは、筑後地域を中心にしながらも、県内はもとより全国、さらには海外の資料も見られます。海外では特に朝鮮半島の資料が多く、田中の学術的見地の広さを窺うことができます。田中は生前、九州の考古学研究者以外にも、梅原末治、小林行雄、杉原荘介など、関東、関西の著名な研究者と交流し、自邸に宿泊させ、自らの資料を見せることを一切拒みませんでした。そのような交流の広さも、コレクションの内容に表れているといえるのではないのでしょうか。

(学芸調査室 岡寺 良)

### 【展示作品から】



五鈴鏡<<福岡県指定>>  
(うきは市浮羽町こもり塚)

9cmほどの鏡の周囲に5つの鈴が付けられたもので、鈴の中には丸石が入っており、巫女が祭祀において振って音を鳴らして用いられたもので、現在でも振ればわずかに音を奏でる。



瓦質火舎<<福岡県指定>>

(左:久留米市草野町 右:久留米市田主丸町石垣)

火舎とは、大型の香炉の一種で、両方共に獣の顔をかたどった三本の脚(獣脚)が付けられたものである。草野町出土のもの(左)は、口径35cmの大型のものであるのに対し、石垣出土のもの(右)は、外面に天女が舞う模様が施されている。



皮袋形須恵器  
(うきは市浮羽町山北)

身が三角形をした珍しい形の須恵器である。皮袋を模したものと考えられ、皮どうしをとり合わせた様子を忠実に写し取っている。古墳の石室から出土したものであろう。



編集

発行:平成25年1月16日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>